

第2番霊場

霊山寺

霊山寺の所在する富雄の里は、古事記には「登美」、日本書紀では「鳥見」の地となっています。

敏達天皇の頃より、この地方は小野家の領有でした。右大臣小野富人(伝 遣隋使小野妹子の息子)は壬申の乱に関与したため、弘文元年(672)官を辞し、登美山に閑居しました。天武12年(684)4月5日より21日間熊野本宮に参籠。この間に薬師如来を感得され、登美山に薬草湯屋を建て、薬師三尊仏を祀って諸人の病を治されました。そして富人は鼻高仙人と称され尊崇されたのです。

神亀5年(728)流星が宮中に落下し、大騒ぎになり孝謙皇女が征中の病(ノイローゼ)にかかれた時、聖武天皇の夢枕に鼻高仙人が現れ、「湯屋の薬師如来を祈念すれば治る」とのお告げがあり、すぐに行基菩薩が代参。皇女の病が快癒しました。天平6年(734)聖武天皇は行基菩薩に大堂の建立を勅命。天平8年インドバラモン僧、菩提僊那が来日され、登美山の地相が霊鷲山(りょうじゅせん)にそっくりということから、寺の名称を霊山寺(りょうせんじ)と奏上され、落慶となりました。

平安時代、弘法大師が来寺され「登美山に力の強い龍神様がおられる」と感得され、奥の院に大辯才天女尊(辯天さん)として祀られました。それまでは法相宗でしたが、弘法大師が真言宗を伝えられ、以後は法相宗と真言宗の2宗兼学の寺となりました。



本尊薬師如来坐像(重文)



43 号



本堂(国宝)

鎌倉時代には北条氏の帰依厚く、豊臣秀吉からは寺領百石が与えられます。また徳川幕府にも受け継がれ、御朱印寺として国家安泰と五穀豊穡そして幕府の武運長久を祈願して参りました。

明治維新の廃仏毀釈により伽藍規模は半減し多くの仏像が焼却されましたが、本尊薬師如来のご加護と大辯才天の霊験により復興、国宝重文建物6棟、重文仏像宝物30余点を所蔵しています。

1200坪の薔薇庭園は先代住職の戦争体験から平和を願って昭和32年に開園、200種2000株の薔薇が心の安らぎを与えてくれます。

電子版瑠璃光では、「菩提僊那と行基菩薩」

(「霊山寺まんが」あとがき 故・青山茂氏(執筆当時帝塚山短期大学教授)を特別掲載しています。

過去発行された瑠璃光もご覧いただけます。



電子版瑠璃光

行事の詳細、他行事は
霊山寺のホームページ:
行事のご案内 でご確認ください。



大和國 登美山鼻高 霊山寺
YAMATOKOKU TOMIYAMA BIRIKU RYOSENJI

【菩提僊那納経会・三重塔壁画公開】(1月)
霊山寺の名付け親 インド僧、菩提僊那に般若心経の写経を奉納、三重塔初層内の極彩色壁画(重文)を1日限定で公開します。

【秋薔薇と秘仏宝物展】(10月、11月)
本尊の秘仏薬師如来、極彩色四天王など秘仏宝物の公開がおこなわれます。

【薔薇会式・えと祭り】(5月)
本尊薬師如来と八体仏にバラの花をお供えし、健康と幸福を祈念する法会が行われます。

【修二会・節分星祭法会】(2月)
旧暦の正月、国家平安、万民豊楽を祈願する法要。節分の日には一年間の除厄、除災、除難を祈願する節分星祭法会、福豆の授与があります。

【修正会】(1月)
天下泰平、五穀豊穡、無病息災を祈願する法要。秘仏薬師三尊がご開帳されます。